

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：中国地方整備局 都市・住宅整備課
担当課長名：石崎 隆弘

事業名	やながせまるごうち 柳ヶ瀬丸河内線	事業区分	街 路	事業主体	宇部市										
起終点	自：山口県宇部市西琴芝一丁目 至：山口県宇部市北琴芝二丁目			延長	0.75 km										
事業概要	本路線は、中心市街地を通り、宇部市の東西を結ぶ幹線道路であり、山陽自動車道や国道490号、国道190号に接続する都市の骨格を形成する延長0.75km、4車線の新設道路である。														
S59年度事業化	S31年度都市計画決定 (H15年度変更)	S59年度用地着手	H元年度工事着手												
全体事業費	33億円	事業進捗率	76%	供用済延長	0.4 km										
計画交通量	40,300台/日														
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 4.6 (残事業)	総費用 (残事業)/(事業全体) / 42億円 (事業費) / 40.9億円 (維持管理費) / 0.6億円	総便益 (残事業)/(事業全体) / 192億円 (走行時間短縮便益) / 173.6億円 (走行費用減少便益) / 7.0億円 (交通事故減少便益) / 11.8億円	基準年	平成15年										
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の再生（中心市街地内で行う事業である） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設である山口大学付属病院へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（密集市街地における火災時の延焼遮断帯の役割を果たす） 外1項目 														
関係する地方公共団体等の意見	宇部市の道路網は、国道190号・一般県道が市街地を貫通しているが交通混雑が著しいため、そのバイパス機能を持つ本路線の早期整備の要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	周辺は、密集住宅地であり、道路幅員狭小であったが本路線の整備にあわせライフラインの整備も進み、沿道利用も促進され中層住宅等の建設が増え、大型ショッピングセンターも出店している。														
事業の進捗状況、残事業の内容等	大規模物件1件の用地補償協議が難航し、工事着手までに長期間を要したが、現在までに0.66kmの工事を完了し、そのうち0.4kmを部分供用している。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成15年度に難航していた大規模物件の移転を終了し、平成17年度に全線供用予定である。														
施設の構造や工法の変更等	施工性、経済性を考慮し工事を施工しており、路盤工で再生材を使用する等、可能な範囲でコスト縮減を図っている。														
対応方針	事業継続														
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 0.5; text-align: center;"> <p>至宇部IC</p> <p>国道490号</p> <p>至宇部空港</p> </div> <div style="flex: 1;"> </div> </div> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(斜線)</td> <td>供用済</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(白)</td> <td>整備済</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(縦線)</td> <td>残事業</td> </tr> <tr> <td>計画交通量</td> <td>40,300台</td> </tr> </table>					凡 例		(斜線)	供用済	(白)	整備済	(縦線)	残事業	計画交通量	40,300台
凡 例															
(斜線)	供用済														
(白)	整備済														
(縦線)	残事業														
計画交通量	40,300台														

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。